

## 一般社団法人エネルギー・資源学会 サマーワークショップ2021開催案内 ネット・ゼロの生活を描く－脱炭素は私達の生活のなにをどこまで変えるのか？－

2020年10月の「2050年カーボンニュートラル宣言」以来、脱炭素社会に向けた議論が活発化しています。経済産業省で開催された有識者会議において、2050年の総発電量に占める再生可能エネルギーの比率を約5～6割にする考えが目安として示されるなど、エネルギー供給側の劇的な変化が想定されています。加えて、エネルギー需要側も、省エネ機器への投資や省エネ行動の徹底のような現状の延長だけでなく、抜本的な行動変容を含めた劇的な変化が必要となるでしょう。また、デジタルトランスフォーメーション、シェアリングエコノミー、代替肉・昆虫食など、将来の私達の消費行動を大きく変化させる新たなサービス・概念が注目されつつあります。さらに、2021年現在もCOVID-19の影響から大幅な行動変容が求められていますが、その影響の一部は将来の生活にまで波及するかもしれません。カーボンニュートラル／ネット・ゼロ・エミッションの世界ではどのような生活が営まれるのか、新たなサービス・概念の出現はネット・ゼロの生活にどのように影響するのか、想像し、議論し、具体的な姿を描き出すことは、産業界・学術界の双方にとって挑戦的で重要な試みとなるでしょう。この試みを実現するには、実務家・専門家・学生などによる多様な視点からの検討が不可欠です。

本ワークショップでは、テーマに関連する講演、パネルディスカッション、および、参加者同士の活発な議論などを通じて、ネット・ゼロ・エミッションを可能にする生活の具体像を描くことを目指します。ワークショップでは、持続可能な意思決定を導くための社会システムデザインなどを専門とする研究者・持続可能な社会に向けて挑戦的な事業を展開している実務家による講演やパネルディスカッションにより、社会システムを変革するような行動変容と脱炭素社会に影響を与える要因などについて学びます。また、グループワークでの議論の場を設け、参加者それぞれの視野を大きく広げると共に能動的な学びを実現することを目指します。多様なバックグラウンドをお持ちの方々のご参加を、お待ちしております。

〔テーマ〕 「ネット・ゼロの生活を描く－脱炭素は私達の生活のなにをどこまで変えるのか？－」

〔主催〕 一般社団法人エネルギー・資源学会

〔協賛〕 環境経済・政策学会、空気調和・衛生工学会、省エネルギーセンター、電気学会東京支部、日本エネルギー学会、日本オペレーションズ・リサーチ学会

〔開催日〕 2021年9月13日（月）

13時開始～17時終了（予定） 終了後、オンライン交流会を予定

〔会場〕 オンライン開催（参加者にZoom IDをお知らせします）

※オンライン参加要領は、別途案内します。

〔参加費（消費税込）〕 正会員・特別会員・協賛団体会員1,000円、学生会員無料、非会員1,500円

※非会員の方でも参加申込みと併せて入会手続きをしていただければ、会員資格で参加できます。

〔支払方法〕 ①銀行振込 りそな銀行御堂筋支店（普）No.1024046 ②郵便振替 00930-5-302948

〔申込方法〕 本会Webサイト（<https://www.jser.gr.jp/>）からお申込み下さい。

〔申込期限〕 2021年9月6日（月）

〔問合せ先〕 ワークショップ詳細：小澤暁人（産業技術総合研究所）

その他：一般社団法人エネルギー・資源学会 事務局

TEL：06-6446-0537 FAX：06-6446-0559 Email：webmaster@jser.gr.jp

〔過去実績〕 本ワークショップは1999年から毎年開催しており、若手会員が共に学び、交流する場として本学会に定着しております。例年30名程度の方々が参加しています。過去のテーマなど詳細は、Webサイト（[https://www.jser.gr.jp/events/category/workshop\\_event](https://www.jser.gr.jp/events/category/workshop_event)）をご確認下さい。

〔代表幹事〕 藤野純一（地球環境戦略研究機関）

〔幹事〕 井上智弘（エネルギー総合工学研究所）、井上麻衣（リバネス）、上道 茜（早稲田大学）、小澤暁人（産業技術総合研究所）、白木裕斗（滋賀県立大学）、杉山昌広（東京大学）、鈴木研悟（筑波大学）、永井雄宇（電力中央研究所）、藤澤 星（フジサワ）、古林敬顕（秋田大学）、渡邊裕美子（Loop）

〔顧問〕 松橋隆治（東京大学）



過去のワークショップの様子（左・中：対面開催時、右：遠隔開催時）